

# ブロック造住宅の系譜

## 新時代の補強ブロック造住宅

群馬県内に補強ブロック造住宅が竣工した。企画を担当した笹澤建材の笹澤常務から「補強コンクリートブロック造（以下、補強CB造）住宅を関わったので、そのい、建てたい」と話があったのは5年ほど前のことである。当時からブロック建築では専用ユニットを使っていた少し触れてみた。



**基礎データ**

構造・規模：補強コンクリートブロック造2階建

敷地面積：192・22㎡

延床面積：112・48㎡

建築面積：65・60㎡

企画：笹澤建材㈱

設計・監理：h+A日比野建築計画室

構造設計：前橋工科大学・林貞夫

施工：カワナベ工業㈱

積造）による型枠ブロック造住宅（以下、型枠CB造）が主流となっていたので、スタンダードブロックを使う補強CB造住宅の話は意外だった。しかし建築用ブロックと言いつつ、塀や土留位でしか使われない空洞ブロックでも住宅が建築できることを示す良い機会でもあり「これからのブロック建築の進む道が掛かっており、今やらなければ今後20年は無い」との思いから引受けることにした。

だが型枠CB造は何棟か設計の経験があったが補強CB造は殆ど経験が無い。まず課題となるのはCB造につきものの雨漏りと湿気対策である。結露によるカビや虫の発生をどう防ぐのか。そもそもCB造は学校の部室や更衣室のイメージが強い。そしてコンクリートブロック造に対する強度の信頼性。さらに一番の問題はコストで、型枠CB造は坪単価70万円かかる。坪単価70万円では、よほどCB造が好きな人で無い限りRC造を選ぶのが普通である。



従来CB造は積極的にブロック面を表す意匠が主流となっていたが、雨漏り・結露対策として、ブロック表面に外壁を施すことを考えた。これにより問題解決を図ることができ外観デザインの自由度も上がる。当然、内観も今まで通り好きなデザインにできる。ちなみに今回の物件の内観は、コスト



とブロック内部の湿気を考慮してCB表しとした。また外壁には熱効率の良い外断熱工法の採用を念頭に置いた。外断熱工法はRC造で何棟か経験があり、木製の胴縁を取り付けて間に断熱材（現場発泡ウレタン）を入れて通気を取りながら外壁を張る方式を採用した。庇も極力設けて外壁を保護した。またCB造の開口部はこれまで大きくは取れないと思っていたが、ブロック積みによる腰壁や臥梁下のブロック積み無くし全ての開口に床から臥梁下までの住宅用サッシを使用した。また最大の課題である建築コストだが、木造住宅の建設費に対抗できる水準にかなり近づけることができた。

ブロック造住宅、特に補強CB造住宅は何故造られなくなっし計画室）

自信をもつて始める建物と自負している。（協力・h+A日比野建築計画室）